

次の **I** の問題は新課程の歴史総合の問題です。「世界史(新)」の受験者が解答してください。(解答番号は **1** ～ **7**)

I 次に示すのは、早坂隆著『世界のロシア人ジョーク集』から一部分を抜き出し、文の一部を空所にしたり、漢数字をアラビア数字に改めたりしたものである。これを読んで、下の問い(問1～問7)に答えよ。(28点)

1985年にソ連の最高指導者となったミハイル・ゴルバチョフ。「新思考外交」を掲げ、対米関係の修復と和解を目指した。「新思考」とは、イデオロギーよりも核廃絶といった全人類的な価値観を重視する考え方である。

(1) また、ゴルバチョフは「プラハの春」を弾圧したブレジネフ政権のような東欧諸国への干渉とは一線を画した。⁽²⁾東欧の社会主義政権は民主化運動の中で次々と崩壊していったが、ソ連は介入しなかった。ブレジネフの「制限主権論」は否定されたのである。このことは、フランク・シナトラのヒット曲をもじって「マイウェイ路線」と称された。

ちなみに、社会主義圏の崩壊を東ドイツで目撃したプーチンは、ゴルバチョフの「和解路線」には怨恨にも似た感情を持っていたと言われる。プーチンはソ連崩壊を「20世紀における最大の地政学的悲劇」と言い表している。

(中略)

そんなゴルバチョフだが、日本を含む西側諸国では「ゴルビー」の愛称で親しまれた。日本でも「ペレストロイカ(改革)」や「グラスノスチ(情報公開)」といった言葉は一種の流行語となった。⁽³⁾ソ連に訪れた「第二の雪解け」であった。

1989年12月3日、地中海の **A** で行われたジョージ・H・W・ブッシュ米大統領との米ソ首脳会談により、冷戦の終結を宣言。1990年、ノーベル平和賞を受賞した。

片や、現在のロシア国内では、「偉大なるソ連を崩壊させた」「崩壊後、暮らしが悪化した」といった理由から、ゴルバチョフに対して否定的な意見を持つ人も

少なくない。

晩年のゴルバチョフは、権威主義を強めるプーチン政権に対し、非難の声をあげた。ただし、そんなゴルバチョフでさえ、クリミア併合には賛成だった。「クリミアはもともと、ロシアの領土」という見解である。

(中略)

ボリス・エリツィンは1931年、ウラル地方の農民の家庭に生まれた。

(中略)

1990年、ロシア共和国の最高会議議長に就任。翌1991年7月、ロシア共和国大統領となった。⁽⁴⁾

8月19日には、モスクワで反改革派グループによるクーデターが発生。ゴルバチョフは別荘に軟禁された。作戦の暗号名はゴルバチョフの別荘の名前から「あけぼの作戦」。モスクワ中心部に戦車部隊が現れ、モスクワ放送は占拠された。

このような動きに対し、エリツィンは「クーデターは違憲」との声明を発表。欧米諸国は「エリツィン支持」を表明した。

モスクワでは約10万人もの人々が集まり、「エリツィン！ロシア！」のシュプレヒコールをあげた。戦車部隊の一部がエリツィン側に寝返り、銃撃戦が勃発^{ぼっぼつ}して死傷者も出た。クーデターの中心にいたヤナーエフ副大統領は、泥酔して執務不能に。エリツィンは勝利宣言し、クーデターは失敗に終わった。その結果、権力の中核はゴルバチョフからエリツィンに移行していった。

8月23日、エリツィンはソ連共産党系のロシア共産党の活動を禁止した。

12月8日、ロシアはウクライナ、ベラルーシと共に、ソ連からの離脱に合意。⁽⁵⁾こうしてソ連の崩壊は不可避となった。雪どけは雪崩となって、ついにソ連自体を呑み込んだのである。

12月25日、相次ぐ構成国の独立により、ソ連は消滅。ソ連大統領であるゴルバチョフは辞任した。ソ連の改革を目指したゴルバチョフも、崩壊までは考えて

いなかったとされる。ソ連の崩壊とは「無類の酒好きだったエリツインが、酒飲みの敵だったゴルバチョフを追い落とした事件」と風刺されることもある。

(中略)

●ソ連という名の列車

「ソ連」という列車が走っていた。しかし、列車は突然、停車した。目の前にあるはずのレールがなくなっていたためである。

B は自らレールを敷いた。

C は責任者を射殺した。

D は、

「後ろのレールを前に繋げればいい」

と言った。

E はこう言った。

「カーテンを閉めろ。そしてみんなで列車を揺らせ。ほら、走っているような気がするだろう？」

ゴルバチョフは、

「レールがない！ レールがない！」

と世界に向かって叫んだ。

最後、酒に酔ったエリツインが列車を爆破した。

問1 [下線部(1)に関して] 1987年に米ソ首脳会議で署名された中距離核戦力

(INF)全廃条約は、後に破棄された。破棄したアメリカ大統領を、次の①～

④のうちから選べ。

1

① オバマ

② クリントン

③ トランプ

④ レーガン

問2 [下線部(2)に関して] ブレジネフ書記長がチェコスロヴァキアに大規模な軍事侵攻を行った際に軍を投入した機構を、次の①～④のうちから選べ。

2

- ① 北大西洋条約機構 ② 全欧安全保障協力機構
③ ヨーロッパ経済協力機構 ④ ワルシャワ条約機構

問3 [下線部(3)に関して] ペレストロイカに関する記述として、下線部が正しくないものを、次の①～④のうちから選べ。

3

- ① ペレストロイカとは、ロシア語で「建て直し」の意味である。
② 企業に独立採算制を導入するなど、資本主義を全面的に導入することによって、経済の活性化がはかられた。
③ 人民代議員大会という新しい議会が開かれ、複数政党制の導入が決まった。
④ ソ連大統領というポストが新設され、ゴルバチョフが就任した。

問4 A に入る地名を、次の①～④のうちから選べ。

4

- ① カイロ ② テヘラン ③ マルタ ④ ヤルタ

問5 [下線部(4)に関して] 同年、ユーゴスラヴィアから最初に分離独立を宣言した共和国を、次の①～④のうちから選べ。

5

- ① クロアチア ② コソヴォ
③ ボスニア＝ヘルツェゴヴィナ ④ モンテネグロ

問6 [下線部(5)に関して] これら3共和国が中心となって形成された共同体を、次の①～④のうちから選べ。

6

- ① CIO ② CIS ③ CTBT ④ NATO

問7 文中の ・ ・ ・ には、ソ連の歴代指導者が
就任順に入る。それぞれに当てはまる人物を、次の①～④のうちから選べ。

- ① B = レーニン C = スターリン
D = フルシチョフ E = ブレジネフ
- ② B = スターリン C = レーニン
D = フルシチョフ E = ブレジネフ
- ③ B = レーニン C = スターリン
D = ブレジネフ E = フルシチョフ
- ④ B = スターリン C = レーニン
D = ブレジネフ E = フルシチョフ

次の **Ⅱ** の問題は旧課程の世界史の問題です。「世界史(旧)」の受験者が解答してください。(解答番号は **8** ～ **16**)

Ⅱ 次のA～Gの事項は、ローマ世界に関する歴史を記したものである。これを読んで、下の問い(問1～問7)に答えよ。(28点)

- A スパルタクスの反乱がおこる。
- B 第1回三頭政治が始まる。
- C 第2回三頭政治が始まる。
- D アクティウムの海戦がおこる。
- E 五賢帝時代が始まる。
- F 軍人皇帝時代が始まる。
- G ミラノ勅令でキリスト教を公認する。

問1 [A・Bに関して] スパルタクスの反乱などによる混乱を武力でしずめ、第1回三頭政治で政権をにぎった3人を、次の①～⑥のうちから選べ。解答の順序は問わないが、すべて正解の時のみ点が与えられる。

8 , **9** , **10**

- ① アントニウス ② オクタウィアヌス ③ カエサル
- ④ クラッス ⑤ ポンペイウス ⑥ レピドゥス

問2 [Dに関して] この海戦で勝利したローマの指導者を、次の①～⑥のうちから選べ。

11

- ① アントニウス ② オクタウィアヌス ③ カエサル
- ④ クラッス ⑤ ポンペイウス ⑥ レピドゥス

問3 [Eに関して] 五賢帝の時代にローマ帝国は最盛期を迎えた。領土が最大になった時の皇帝を、次の①～⑤のうちから選べ。

12

- ① アントニヌス=ピウス ② トラヤヌス
- ③ ネルウァ ④ ハドリアヌス
- ⑤ マルクス=アウレリウス=アントニヌス

問4 [Fに関して] 軍人皇帝時代を終わらせ、帝国を東と西にわけ、四帝分治制をとった皇帝を、次の①～④のうちから選べ。

13

- ① コンスタンティヌス帝 ② ディオクレティアヌス帝
- ③ テオドシウス帝 ④ ユリアヌス帝

問5 [Gに関して] ミラノ勅令でキリスト教を公認した皇帝を、次の①～④のうちから選べ。

14

- ① コンスタンティヌス帝 ② ディオクレティアヌス帝
- ③ テオドシウス帝 ④ ユリアヌス帝

問6 ラテン散文の名文とされる『ガリア戦記』を著した人物を、次の①～⑥のうちから選べ。

15

- ① カエサル ② ストラボン ③ タキトゥス
- ④ プルタルコス ⑤ ポリビオス ⑥ リウイウス

問7 ラテン散文の模範とされる『国家論』を著した人物を、次の①～⑤のうちから選べ。

16

- ① エピクテトス ② キケロ ③ セネカ
- ④ ルクレティウス ⑤ マルクス=アウレリウス=アントニヌス

次の **Ⅲ** ～ **V** の問題は「世界史(新)」および「世界史(旧)」の受験者に共通の問題です。いずれの受験者も解答してください。(解答番号は **17** ～ **34**)

Ⅲ 次のA～Hは19世紀後半から20世紀の始めまでの欧米列強の政治と社会に関する事項である。ただし、A～Hは正しい生起順とは限らない。これを読んで、下の問い(問1～問6)に答えよ。(24点)

- A アメリカ＝スペイン(米西)戦争
- B アメリカによる中米諸国に対する棍棒外交
- C スエズ運河株式会社の株の買収
- D アメリカの中国での門戸開放政策の提唱
- E ドレフュス事件
- F パナマ運河の開通
- G ファショダ事件
- H 南アフリカ戦争

問1 [Aに関して] キューバ独立運動に乗じて、この戦争を引き起こした共和党出身の第25代合衆国大統領を、次の①～④のうちから選べ。 **17**

- ① ウィルソン
- ② セオドア＝ローズヴェルト
- ③ タフト
- ④ マッキンリー

問2 [Cに関して] 株を買収して運河の経営権を握って「インドへの道」を確保したイギリス保守党の首相を、次の①～④のうちから選べ。 **18**

- ① グラッドストーン
- ② ジョゼフ＝チェンバレン
- ③ ジョン＝ヘイ
- ④ デイズレーリ

問3 [Eに関して] 1894年、ドレフュスはスパイ容疑で終身刑を宣告されたが、1906年に無罪となった。このとき、彼の救援活動を行なった人物とその人物の著作の組み合わせとして正しいものを、次の①～④のうちから選べ。

19

- ① ゾラ『悪の華』 ② ゾラ『居酒屋』
③ ブーランジェー『悪の華』 ④ ブーランジェー『居酒屋』

問4 [Gに関して] 1881年にチュニジアを保護国とし、1898年にこの事件をおこした国を、次の①～④のうちから選べ。

20

- ① イギリス ② エジプト ③ ドイツ ④ フランス

問5 [Hに関して] この戦争をおこしたイギリスの植民相が、その拡張政策を引き継いでいたケープ植民地の首相だった人物を、次の①～④のうちから選べ。

21

- ① ウラービー ② ホセ＝リサール
③ ムハンマド＝アフマド ④ ローズ

問6 [B, D, Fに関して] 米西戦争以降のアメリカ合衆国における動きとして正しい生起順を、次の①～⑥のうちから選べ。

22

- ① B→D→F ② B→F→D ③ D→B→F
④ D→F→B ⑤ F→B→D ⑥ F→D→B

IV

イスラーム世界に関する次の問い(問1～問6)に答えよ。(24点)

問1 イスラーム教について述べた次の文のうち、下線部が正しくないものを、次の①～④のうちから選べ。 23

- ① イスラーム教は、7世紀前半にアラブ人の諸部族のあいだにひろがった宗教である。
- ② イスラーム教は、バラモン教やキリスト教の系譜のうえに生まれた宗教である。
- ③ イスラーム教は、メッカの名家クライシュ族に生まれたムハンマドによってとなえられた宗教である。
- ④ ムハンマドは、自らをアッラーの言葉を預けられた預言者であると考え、周囲の人びとに、アッラーへの絶対的帰依を説いた。

問2 ムハンマドについて述べた次の文のうち、下線部が正しくないものを、次の①～④のうちから選べ。 24

- ① ムハンマドは、メッカの有力者たちによる迫害にあい、622年、別の都市へ移住した。
- ② ムハンマドは、メディナで、イスラーム教徒による大きな勢力をつくり、630年には、メッカを征服して支配した。
- ③ ムハンマドの權威にアラブ人の諸部族が従った。彼が率いるイスラーム教徒のウンマは、力のある政治的・軍事的勢力となった。
- ④ ムハンマドの死後、アリーが初代カリフとして選出された。

問3 イスラームの文化について述べた次の文のうち、下線部が正しくないものを、次の①～④のうちから選べ。 25

- ① インドの数学がもたらされ、アラビア数字がうまれた。
- ② 9世紀初頭以後、バグダードの「知恵の館」(バイト＝アルヒクマ)を中心として、ギリシア語による医学・天文学・幾何学・倫理学・哲学の文献がアラビア語に翻訳された。
- ③ アリストテレスの哲学は、イスラーム神学の形成に重要な役割を果たした。
- ④ 医学では、中央アジア出身のフワーリズミーが著名である。

問4 イスラームの文化について述べた次の文のうち、下線部が正しくないものを、次の①～④のうちから選べ。 26

- ① 聖典『コーラン(クルアーン)』やムハンマドの言行についてのハディースを扱う学問が発達した。
- ② タバリーは、『預言者たちと諸王の歴史』を^{へんさん}編纂した。
- ③ モスクなどで用いられる装飾では、人物や鳥獣をモチーフとしたアラベスクが発達した。
- ④ インド・イラン・アラビア・ギリシアなどに起源をもつ説話が集められ、それらはのちに『千夜一夜物語』にまとめられた。

問5 アッバース朝の成立と繁栄について述べた次の文のうち、下線部が正しくないものを、次の①～④のうちから選べ。 27

- ① イラン人など異民族のあいだにユダヤ教を受け入れるマワーリーが増えると、アラブ人支配層と彼らとのあいだに^{あつれき}軋轢が生じた。
- ② ムハンマドの叔父の子孫であるアッバース家が、750年、ウマイヤ朝を滅ぼしてアッバース朝を開いた。
- ③ アッバース朝は、国の中心をシリアからイラン・イラクに移し、ティグリス川西岸に円形の都バグダードを造営した。
- ④ アッバース朝は、ハールーン＝アッラシードの治世に最盛期を迎えた。

問6 イスラーム政権の多様化について述べた次の文のうち、下線部が正しくないものを、次の①～④のうちから選べ。

28

- ① ウマイヤ朝の滅亡後、ウマイヤ朝の一族は、イベリア半島に逃れ、トレドを都とする後ウマイヤ朝を開いた。
- ② 北アフリカにおこったファーティマ朝は、969年、エジプトを征服して、首都カイロを造営した。ファーティマ朝は、はじめからカリフの称号をもちいてアッバース朝の権威に対抗した。
- ③ 10世紀のアッバース朝では、トルコ系のマムルークの台頭などによりカリフの権限は弱まっていた。
- ④ ブワイフ朝がアッバース朝の首都に入城し、カリフから大アミールに任命された。

V 下の1～6は、第二次世界大戦に関する、見出しとそれを説明した文章から成り立っている。各文章に含まれる3カ所の[]内の語、a・b、c・d、e・fから、史実として、より適切なものをそれぞれ選んで、その組み合わせを、次の解答群から選べ。(24点)

<解答群>

- ① a-c-e ② a-c-f ③ a-d-e ④ a-d-f
⑤ b-c-e ⑥ b-c-f ⑦ b-d-e ⑧ b-d-f

1 ナチス=ドイツの侵略

29

ナチス=ドイツはドイツ民族の自決を名目として、1938年3月、[a. オーストリア b. ハンガリー]を併合し、同年9月、ズデーテン地方の割譲を要求した。イギリスの首相は宥和政策をとったため、同年9月末、イギリス・フランス・ドイツ・イタリアの4国による[c. オタワ連邦会議 d. ミュンヘン会談]が開催された。これによりズデーテン地方のドイツへの割譲が認められたが、ヒトラーは満足せず、1939年3月、チェコスロヴァキアの解体を強行した。ドイツの行動に刺激を受け、イタリアも[e. アルバニア f. ルーマニア]を併合した。イギリス・フランスは宥和政策の限界を感じ、軍備拡張を急ぐと共に、ポーランドとギリシアの安全保障を約束した。一方で、ソ連はナチス=ドイツとの間で独ソ不可侵条約を締結した。

2 開戦とヨーロッパ戦線

30

ナチス＝ドイツは、1939年9月1日、ポーランド侵攻を開始した。イギリス・フランスはドイツに宣戦し、第二次世界大戦が始まった。ポーランドは、ドイツ軍とソ連軍の侵入を受けて敗北し、両国間で分割された。ソ連は、[a. スウェーデン b. フィンランド]に宣戦して、更にバルト3国を併合した。ドイツ軍は、1940年4月、デンマークと[c. オランダ d. ノルウェー]に侵入し、更にフランスに侵攻して、同年6月、パリを占領した。フランスでは、第三共和政が崩壊しペタン政府が成立してドイツに降伏した。しかし、ド＝ゴールらは降伏を拒否し、ロンドンに亡命政府を組織して抗戦した。イギリスでは、1940年5月、[e. チェンバレン f. チャーチル]が首相となり、激しい空襲をしのぐとともに、ドイツ軍の上陸を阻止した。

3 独ソ戦勃発

31

ドイツは、1941年2月、イタリアを支援して北アフリカに軍を派遣した。更に、同年4月、バルカン半島に侵攻し、ギリシアと[a. ブルガリア b. ユーゴスラヴィア]を占領した。ドイツはヨーロッパ大陸の過半を支配するようになったが、ドイツのバルカン半島進出はソ連との関係を緊張させることとなった。ソ連は、1941年4月、[c. 日ソ中立条約 d. 英ソ軍事同盟]を結んだ。ドイツは、同年6月、独ソ不可侵条約を無視してソ連を奇襲した。当初はドイツ側が優勢だったが、モスクワ攻撃が失敗し、戦争は長期化した。短期戦に失敗したドイツは、経済を支えるために占領地から工業資源や食料を奪った。また、支配地域にも人種差別主義を強制し、多数のユダヤ人やスラヴ系の人々をアウシュヴィッツなどの[e. 強制収容所 f. ゲットー]で殺害した。

4 太平洋戦争勃発

32

日本は、1940年9月、フランス領インドシナ北部に軍を派遣し、また、ドイツ・イタリアとベルリンで[a. 三国防共協定 b. 日独伊三国同盟]を結んだ。これまでアメリカ合衆国は中立を守っていたが、武器貸与法によってイギリス・ソ連などに武器などを送るようになり、反ファシズム諸国の支援を明確に示した。また、アメリカは日本への石油供給を停止し、日本の南方進出を牽制した。このような状況の中、日本軍は、1941年12月8日、英領の[c. フィリピン d. マレー半島]に侵攻した。さらに、日本軍は[e. グアム f. ハワイ]の米海軍基地を奇襲し、アメリカ、イギリスに宣戦し、太平洋戦争に突入した。

5 枢軸国の敗北と大戦の終結

33

太平洋戦争開始後、ドイツ・イタリアもアメリカ合衆国に宣戦し、枢軸国(ファシズム陣営)と連合国(反ファシズム陣営)との世界大戦に入った。1942年後半から連合国軍は総攻撃に移り、ソ連軍は1943年の初め、[a. スターリングラード b. モスクワ]でドイツ軍を降伏させた。日本軍は、1942年6月、ミッドウェー海戦で大敗し、戦争の主導権を失った。また、1943年9月、連合軍がイタリア本土に上陸すると、イタリア新政府は無条件降伏を申し出た。1943年末には、米・英・ソ3国首脳が[c. カイロ会談 d. テヘラン会談]を開催し、北フランス上陸作戦が協議された。これによって、1944年6月、米英連合軍によるノルマンディー上陸作戦が敢行され、1944年8月、ドイツ軍占領下のパリは解放され、ド=ゴールは臨時政府を組織した。その後もドイツの劣勢はつづき、ベルリンも占領され、1945年5月、無条件降伏した。1945年7月に入り、米・英・ソ3国首脳は[e. ポツダム会談 f. ヤルタ会談]を開催し、ドイツの戦後処理などの問題を討議した。本土への爆撃が強まった日本は、1945年8月にポツダム宣言の受諾を決定、翌月、降伏文書に署名し、6年にわたる第二次世界大戦は終結した。

連合側は、戦後の世界の秩序の大きな枠組みを、[a. 1941年 b. 1942年]の大西洋憲章で示していたが、その具体化は、大戦末期の様々な国際会議のなかですすめられた。まず、国際連盟にかわる新しい国際機関については、1944年8月～10月、[c. 米・英・ソ・中 d. 米・英・ソ・仏]はダンバートン・オークス会議を開き、国際連合憲章の草案をまとめた。これは、1945年、連合50カ国が参加した[e. サンフランシスコ会議 f. ワシントン会議]で、正式に採択され、同年10月に国際連合が発足した。